

グローバル時代へ積極的な対応を！

日本塗装機械工業会
会長 壺田貴弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、英国の EU 離脱、米国大統領選挙、COP21 の中国、米国の批准など大方の予想を覆す事態が頻発しましたが、本年もどのような年になるか期待と不安が交錯する出発となりました。

CEMA も昨年 40 周年を迎え、本年は 41 年目のスタートとなり、新たに 50 周年を目指して心機一転の活動が必要になります。

幸い、CEMA は 21 世紀に入る時点で、次のビジョンを策定しました。

1. 塗装技術を通じて新しい価値を創造し、その活動をグローバルに展開します。
2. 塗装技術を追求し、作業環境の改善と地球環境の保全に尽力します。
3. 会員各社は、相互の信頼関係を深め、共生と共栄を自らの手で切り拓きます。

このビジョンに基づく活動として、CEMA は 21 世紀に入る段階で会誌、会報などの発行をやめ、ホームページを開設し、いわゆるペーパーレスを先行してきました。本年も、ホームページのコンテンツを充実させることを諸活動の主眼としています。現在、「電子図書館」として塗装に関する用語、質疑応答など技術情報を発信していますが、本年は、グローバル時代に対応するために海外情報も積極的に入手し、有効な情報を電子図書館に掲載し発信していく予定です。

この 10 年を振り返りますと、会社、学校で一人一台のパソコンで情報の共有化、迅速入手の態勢が整いつつある中で、この数年はスマートフォンの普及、ライン、スカイプなどのツールの開発などで、職場にいなくても仕事が可能な時代になろうとしています。また、情報もネット上では玉石混合の状態で溢れかえっていますが、工業会の役割の一つとして、情報を整理して体系的に、迅速に伝えることにあり、その一環として過去 17 回に亘り技術シンポジウムを毎年開催してきましたが、本年も秋に開催を予定しています。

また、2 番目のビジョンでの「作業環境の改善と地球環境の保全」に関しては、リスクアセスメントの実施義務、パリ協定に基づく二酸化炭素排出量の削減が直近のテーマとして迫っております。これらの対応は塗装機械だけの取り組みでは限界があり、塗料、塗装関係者、関連する行政などとの関係も必要となってきます。そのためには、CEMA 単独の活動では限界があり、塗料、塗装の関係団体との共同の取り組み、行政との情報交換など組織的な対応が求められます。CEMA として、これら安全環境に対する取り組みには積極的に取り組んできましたが、今後も情報提供、共同作業などに前向きに対応し、業界の信頼度の向上に貢献していきます。

本年が、塗料、塗装業界に取りまして、業界の信頼度が増し、社会的地位も向上し、魅力ある業界として認知されるように微力ながら尽力する所存ですので何卒よろしく願い申し上げます。